同窓新報

題字・上野慧賢先生

発行所
東京都世田谷区
上用賀一丁目
駒沢大学高等学校
同窓会
TEL (700)6133(代)

第五回 役員総会開く

六月八日（木）午後六時より、三軒茶屋「富士」にて、上野慧賢・羽住 奎・和田実正・神谷道倫・佐藤正・幸前芳孝・田島宏樹の諸先生の出席を得て第五回役員総会が開催された。

上野名誉会長・石田副会長の挨拶の後、本年度永年勤続の先生方に記念品を贈呈した。二十年勤続・和田実正先生（花瓶）十年勤続・田島宏樹先生（置時計）今後益々の御精進をお願いしたい。

続いて議事に入る。

五十二年度決算の件

決算報告・会計監査報告があり、承認された。

役員改選の件

前年度の各役員と新に庶務係に妻倉由明氏（十六期）を選任した。

会則・細則改正の件

会則第十四条四項に役員会を設置。常任幹事会構成員総数五十三名となり、度々常任幹事会を開く事が困難である。しかし、それに反して、審議事項が多くなってきた。それ等の理由により、人数を限定し、機動力があり、案件を十分に審議できるようにするのが目的で役員会を設置した。細則については、まず、会議規定に役員会を入れる。助成規定では三項を五千円に、四項の条文を母校々友会の各部に役員会の決議により、助成することができるとする。改正前は重に関東大会・全国大会に出場した部に祝金として助成していたが、今後は、全ての部を対象とし、各部における必要度等を役員会で十分審議して助成する事とした。慶弔規定・表彰慰労規定についても金額の変更を行なった。直、今回の改正は昭和五十三年四月一日に遡って施行される事となった。

（会則・細則は別紙に印刷）

五十三年度事業計画の件

母校創立三十周年事業に協力する。詳細については役員会で決定する。（参考までに、二十周年記念事業としては、職員室前の庭園を寄贈）また三年後には本会の三十周年を迎える事となるため、本年度より、その準備に入る。現在の計画では、式典の挙行・名簿の発行・奨学金制度の設置・その他である。さらに詳しい事については今後の課題である。会員諸氏の積極的な提案を待っている。

五十三年度予算の件

事業計画により予算案を作成。承認。長時間にわたる慎重審議の結果以上のように決定した。その後諸先生方との懇談に移る。

昭和五十三年度役員

名誉会長
上野 慧賢

顧問
羽住 奎
白浜 正幸
高橋 磐
和田 実正
神谷 道倫
佐藤 正
菊地 祐吾
広野 義成
幸前 芳孝

会長
秋山 彰三（一期）

副会長
石田 一男（一期）
石井 清繁（二期）
関田 喬（三期）
田上 太秀（四期）

庶務
森本 勝（四期）
浦 敏之（十三期）
宮 健二（十六期）
高木 恒一（十六期）
妻倉 由明（十六期）
涌井 清（十九期）
真間 馨（二一期）

会計
浜田 好晃（八期）
日吉 明広（十九期）
小坂規矩雄

会計監査
原 正雄（一期）
橋本 信義（三期）

昭和52年度決算

1. 収入の部

前年度繰越金	2,893,495
終身会費 5000×477	2,385,000
25周年記念誌代	13,000
利息	36,040
計	5,327,535

2. 支出の部

	予算額	支出
事務費	150,000	93,180
通信費	50,000	6,360
会議費	500,000	143,300
慶弔費	200,000	115,000
同窓新報発行費	700,000	0
クラス会助成費	200,000	135,000
クラブ助成費	500,000	330,000
予備費	800,000	0
小計	3,100,000	822,840
預金	2,358,495	4,504,695
総計	5,458,495	5,327,535

昭和53年度予算

1. 収入の部

前年度繰越金	4,504,695
終身会費 5000×499	2,495,000
計	6,999,695

2. 支出の部

事務費	150,000
通信費	50,000
会議費	300,000
慶弔費	200,000
同窓新報発行費	700,000
クラス会助成費	200,000
クラブ助成費	700,000
30周年記念事業準備費	100,000
〃 基金	1,000,000
駒大高30周年記念事業費	2,000,000
予備費	500,000
小計	5,900,000
預金	1,099,695
総計	6,999,695

新教頭に 羽住 奎先生
新事務長に 白浜正幸先生

今度、上野敏雄・深沢弘明両先生が、家庭の事情により退職されました。両先生共、本会顧問として、本会発展のために、尽力下さいました。特に上野先生は昭和三十五年九月に母校奉職以来十八年間にわたり、母校発展のために努力なさってきましたが、家庭の事情で、長野県に帰られる事となり、三月三十一日付で退職されました。今後の御活躍を祈っております。

後任として、多くの同窓生が親しくその教えを受けてきました、羽住奎先生が教頭に、白浜正幸先生が事務長に就任されました。両先生は母校に就任して二十年以上というベテランです

羽住先生は昭和三十年に英語科教諭として就任され、熱心な、緻密な授業をなされてきました。また、教務主任・生活指導主任等を歴任されました。

白浜先生の就任当時は母校の存続か廃止かという時期であり、母校のために尽力されて来た歴史を持っておられます。また長く生活指導主任として、生徒が横道にそれないように、更生するようにと、時には厳しく、時には慈悲の心で生徒に接してこられました。

このように両先生共、学識豊かであり、教育者として、その実践に勤めておられます。厳しい状況のもとにある本校をさらに飛躍させて下る事でしょう。我々同窓生一同、両先生の御活躍に期待を寄せたいと思います。両先生は長く本会顧問として、尽力下さっております。また学校として一年で一番多忙な時期であり、また新しく役職に就任した直後にもかかわらず、本新報のために、その所信を書いて下さいました。感謝しております。

このたび上野先生が突然ご家庭の事情でご退職されることになり、不肖私が教頭に就任致すことになりました。

上野先生は、ハワイへ赴任された大山先生の後を受けつがれ三年間、幾多の重要問題や教育行政に献身的に取りくまれ、着々とその成果を挙げられ、なお今後

に多くを期待していただけに誠に残念なことであります。先生のお人柄と各方面に発揮された才腕に敬意を表わし、ご苦労に感謝申し上げますとともに、先生の今後のご多祥とご自愛を心よりお祈り申し上げます。

つい先日まで、はたから眺めていて大変な職責だと考えていたものでしたが、運営手腕など全くなく浅学若輩の身のこととてこの大任を果すことの不適なことは十二分に承知しておりますが、お引き受け致しました。

本校は、先輩の諸先生はもとより同窓諸賢の残された基礎と伝統に支えられ、本年創立三十周年を迎えることになりました。同窓生も九千有余を数え、各方面にわたりご活躍されておられることは、誠に喜ばしいことであります。本校にとってのこの三十年の風雪は幾多苦難の道の連続でありましたが、その都度、同窓諸氏の暖かいご支援とご鞭達により、また教職員のたゆまぬ努力により無事乗りきることができ、今日の安定を見ております。

昨今の世相の混乱は一つには、教育界の混迷にあると指摘する見方があり、猫の目のように変る教育行政に対する不信と不安、受験にかかわるいろいろな弊害などは、一面において事実であります。またすでに久しく私学の危機という言葉を耳にしますが、学費の高騰、経営問題、公立高増設による私立高への影響、学力低下その他の懸案問題があり、私学に不利な状況が多々あります。これらのことは決してよそごとではなく、現実に本校にも直接間接に影響を与えつつあります。しかし、本校教育理念にたちかえり、その精神の積極的継承と実践により、また、研究と創造により必ずや解決され、光明が見いだされるものと信じております。

本校は現在一〇〇名に近い教職員、一、五〇〇名の生徒一丸となって明日へ向って前進と、学力増進をはかるべく研究を重ね、更に環境の整備充実に意を注いでおります。また特別教育活動に見られる各部の活躍とその成果は、今後とも多くの期待がかけられております。

このような不安と期待の交錯する中での就任により私に課せられた問題や、やらねばならぬ務めは覚悟していますが、微力を傾注し一つずつを真剣に地道に教職員と共に本校の名実ともの発展向上のために努力を惜しまぬものであります。

同窓諸賢の旧に倍する暖かいご支援とご協力を特にお願いし、就任の挨拶といたします。

（二月記）

御挨拶

教頭 羽住 奎

ごあいさつ

事務長 白浜正幸

私は今般図らずも本校事務長に任命されました。開校二年目の昭和二十四年四月に保健体育の教員として奉職以来二十九年間、波瀾に富む本校の歴史と共に歩いて来たのですが、今度は管理職としての道を進むことになった訳です。二月一日に就任しましたが、教職とは異なる仕事なので、戸惑いながら多忙な毎日を送っています。事務処理の一つ一つが、即学校運営なので、その責任の重大さに堪えかねて、事務長という器でないことを痛感しています。しかし就任してまだ日も浅く、暗中模索の段階なので、弱音もでるのかも知れません。

ただ私には本校の歴史と共に、苦楽を味わって来たという自信があります。私は、信は力なりという言葉が好きです。学校を愛する心も人後におちないつもりです。

現代は、批判ばかりしていて実践が伴わないという風潮があり、実に嘆かわしい限りです。また実践のみで批判もなく、反省もなしでは進歩は望めず、これも困ったものです。

私は自己の職責を遂行するに当っては、件案を立案し十分に吟味し、然る後に率先躬行するつもりです。そのためには己を捨て、誠実に、情熱をもって、弛ゆまざる研鑽と努力をはらう覚悟です。人の和ということも忘れてはいません。

駒大高校も今年は、三十周年を迎えることとなり、軌道に乗って来ました。しかし本校開校以来の歴史を知る方々は、この節目を一大転換期と認識されるでしょう。何故なれば本校の世間での評価は、楽観を許さざるものがあるようです。私の耳には、昔の駒大高校は、宗立学校らしさがあったが、最近はその特色が失なわれて来たようだという言葉が容赦なくとび込んで来ます。

行学一如とか、合掌の精神とか、率先垂範といった語句が絵空事だというのです。

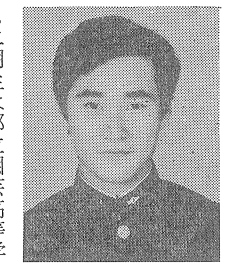
私が本校に奉職した頃は現在の駒沢大学副学長の水野弘元先生が、本校の副校長で、現在の上野校長先生や、故人になられた錚錚たる先生方がおられて、毎日仏教についてのお話を聞いて過していました。本当に宗立の学校という雰囲気だったものです。そして生徒達にも反映していました。この原点に早く返したいものだという焦燥感にかられます。

これは私達役職の責任であると、深く反省しています。私はこれを成就させるためには、誠心誠意努力するつもりです。

私の仕事には、いろいろな分野があると思いますが先生方の教育活動の円滑を図るということを考えています。同窓生の中には、さまざまな業種で活躍され、相当な地位の方もあるようですが、是非お知恵を拝借したいものです。同窓会の会則には会員相互の親睦、母校の興隆発展のためとあります。これを空文に終らせたくないものです。愚痴と厚かましいお願いを書いてごあいさつとします。

我が母校

第二期生　石井清繁



昭和二十七年駒沢大学内の木造校舎を後にして早や二十六年、思えば生徒数も少人数、物資もとぼしく一言で表わすことの出来ない程学校経営は苦労の多い年代であったでしょう。当時は他の学校も生徒数が少なく修学旅行においても私ども二期生は都立園芸高等学校と合同で旅行したことを記憶しています。各学校も色々と苦労があった事を感じます。当時少人数であった同窓生も学校当局の努力が実り充実するとともに同窓生は毎年増加の一途をたどり開校以来十年、二十年のあゆみの中で駒大高同窓生は大世帯になり大変喜ばしく力強く感じます。

この社会の中に駒沢大学高等学校を選んだ人達が今日では一〇、〇〇〇人、あらゆる職場と勉学において活躍中であることはほんとうに喜ばしい事です。

今年からは同窓生に子供が加わり親子で共通の話題を生む事が出来忘れかけていた種々の思い出も歴史を語るようであります。

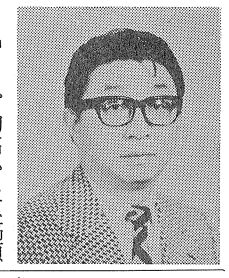
第一に上野校長先生と諸先生方の生徒に対する熱意であります。そして親子二代でお世話になり大変感謝しております。これからも年を追うごとに二世の入学姿を考えますと母校のありがたさを感じずにはいられません。先生方及び事務局の方々には大変御理解をいただき同窓生として心温まる思いがいたします。

今年は開校三十周年を迎える母校、益々の発展、同窓生は各々社会においてどんな仕事であっても忠実で後輩を大きく支援しなければならないと思います。

親子で同窓会に参加することを間近にして同窓新報に投稿の機会を得ましたことに感謝すると共に駒大高の発展と同窓会の益々の充実を祈ります。

二代駒大高校に学んで

第三期生　島田寿三



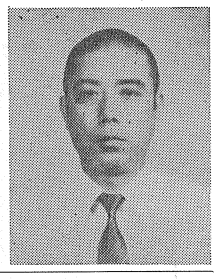
「オイ、駒高から原稿頼まれたぞ」と云ったら、余計な事を書かないでよ……と云われた。確かに今は学ぶという言葉がピッタリ来るような規律正しい校風だろうが、我々の頃はあまりよく学ばなかった。だから「初代は遊び二代は学ぶ駒大高」が正解だろう。駒大高三期生として入学した時は一年から三年迄でたったの五クラス。真面目な生徒と箸にも棒にもかからぬ悪党が半々といった有様。他の学校のはみ出し者が集った感があったものだ。それが今や、愚息に云わせると「辞書をひいてごらん、勤勉とか真面目ってとこを見ると駒大高」って出てるから……となるのだ。

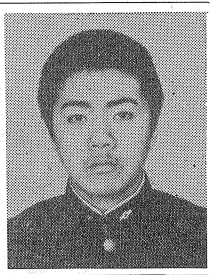
昔からガツ〳〵勉強するのが嫌いで、二浪三浪して迄東大なんて奴の顔を見るとまるで血の通わぬ機械人間に見えて来て可哀想でたまらぬ。だからただの一ぺんも子供達に勉強〳〵とせつついた事がない。だがよくしたもので、親が遊んだ分子供が真面目に学んでいるらしい。彼がまだ小学校の頃から、駒高え行って大学は駒大だなと冗談には云ってたが、まさか本当に行くとは思っていなかっただけに驚ろいた。野球がメシより好きな小生が幼稚園の頃からボールを持たせたが現在でも体育が苦手という位に下手で、末は駒高駒大の野球部という親の夢を簡単に放棄させた。あとは二男に望みをかけて特訓中である。やがて駒高球史に残る名選手にしたてるので、乞！　御期待。

原稿を書いてると心配なのかのぞきに来て「何だまだモタ〳〵書いてるの？」「どうも原稿料の出ないヤツは気分がのらんね」「だったら忘れたふりして書かなきゃいいじゃない」。矢張り何を書かれるか心配の様だ。そう〳〵、二人の写真をという事だが、カメラの趣味で百台も並べてるしヤツもカメラにこってるのに、親子二人で撮った写真が一枚も無いのに今気が付いた。この原稿を機に一ぺん写しておく事にした。

回想

第三期生　鳥沢俊寛





「根深ければ枝葉枯れず、源に水あれば流れ干はかず」

敗戦後の苦難の道にも堪え、脈々と絶えず流れずめに流れて来たその結晶が、螢雪二十九年の年輪を刻み都の西南に駒沢大学高等学校ありと、益々発展した母校の姿を眼のあたりに見るとき、感激以外のなものにもございません。

先般の同窓新報にもご紹介いただきましたように、本校には私と愚息と二代お世話になり特に上野校長先生には、私の父親から、親子三代に亘ってお訓えいただきましたこの因縁に、深い感動を覚えます。

更に昨年五月、計らずもPTA総会の席上、会長に推薦され、爾来若輩且つ浅学非才の私を、終始変らぬ慈愛をもって御指導下さった先輩石井清繁副会長には、深く感謝申し上げる次第でございます。

同時に、PTA会員皆様方のご理解あるご協力のもと、母校にPTA活動をとおして微力ながらも何らかの形で、報恩の足跡を残せたと言うことで、その感慨もひとしおでございます。

願わくは、愈々本校も本年創立三十周年を迎えようとしているわけですが、益々の隆盛発展を祈念しつつ筆をおく次第です。

駒大高校だより

五十三年度の入学試験が終了し、四月八日には五百十五名の新入生が入って来た。新学期のあわただしい時期も過ぎ、教育に専念している毎日である。今年は創立三十周年にあたり、種々の記念事業を予定し、準備中である。同窓諸兄の御協力をお願いしたい。

校友会活動の五十二年度の報告をする。各部共に、飛躍的な発展をとげている。成績の重なものを紹介してみる。

関東大会出場部

剣道部　団体二位、優秀選手、権田

サッカー部　ベスト八

柔道部　団体二回戦、個人（横山核之進）三位

庭球部　団体三回戦、個人一回戦

バレーボール部　ベスト八

バスケットボール部　二回戦

体操競技部　団体四位、個人（樫山和明）四位

高校総体出場部

体操競技部　個人優勝（樫山）

庭球部　個人、古屋、原田組、杉浦、石井組—三回戦

池田、椎名組—一回戦

バスケットボール部　二回戦

国民体育大会出場部

体操競技部　団体七位

柔道部　個人無差別級山本隆　二回戦

バスケットボール部　東京選抜チーム大山謙二　二位

ハンドボール部　東京選抜チーム猪野栄一・森田裕幸

全日本新体操選手権

団体四位　個人（樫山）三位

全日本高校選抜軟式庭球大会

団体二位、等と輝かしい成果をあげてているが、他の部に於いても

バトミントン部　新人戦八位

陸上競技部　都駅伝九位

野球部　西東京大会五回戦

全国居合道選手権

九位と頑張っている。

直、文化部においても

吹奏楽部　都吹奏楽コンクール第二位

英語部　関東地区英語弁論大会スピーチの部第一位

小松久嗣、第八支部英語弁論大会第一位、野武秀明

文武両面で活躍中であるこれらの記録を心の糧として後輩達は本年も血と汗の練習に耐えて頑張っている

商業科の募集停止について

昭和五十二年度から商業科の募集を停止しましたがこのことについて事情をお知らせしておきます。

昭和三十七年度、商業科設置の当時は、高校進学者一般・工業科など、専門教育を主とする学科の志願者が多く、また進路についても志願者の多くが就職ないし、各種学校を希望しており、商業科履修の目的がはっきりしていました。こうした状況およびこれに基く中学校側の要望が本校における商業科設置の動機の一つでありました。教育課程の編成についても普通科に関する科目を標準単位にとどめ、商業科の科目に時間を多く配し、学科の特徴を活かした編成をすることができました。

ところが、昭和四十年代前半頃から大学進学志望者の増加、普通科志向の増大などの傾向があらわれ、本校の商業科応募の状況にも変化が生じてきました。まず、応募者が減少し定員に達しない年が続きました。また商業科応募者が必ずしも専門学科の履修を希望するものでなく、進学を希望している者の割合が多くなってきました。

このため、二学級百名定員のところ、一学級五十名の編成とし、教育課程の普通科に関する科目に増加単位を設けるなどして対処してきました。こうして、専門学科を履修する商業科の特色が生徒の志望において、また、教育課程の編成において、稀薄になってきました。

そこで、昭和五十二年度から、商業科として独立した課程の設置を停止し、普通科において商業に関する科目を選択履修できるよう教育課程を編成することにしました。

商業科の募集停止のことに、商業科同窓諸兄のみならず、本校関係者一同、一抹のさびしさを感じないではありませんが、諸般の事情による発展的な措置であるとお考えいただきたく存じます。

特別会員の移動

退職者

上野　敏雄（教頭）
深沢　弘明（学監）
谷敷　正光（社会）
荻原　義雄（国語）
森藤　憲定（国語）
千葉　正広（理科）
中山　文法（事務）
高木　行雄（事務）
佐藤　常子（事務）

就任者

池川　浄（英語）
岩松　博文（英語）
千葉　正広（理科）
佐藤　悦成（宗教）
吉岡信一郎（英語）
谷　雄一朗（社会）
樫村　昌（社会）
菊地　主洋（英語）
飯沼　昇（国語）
稲葉　真二（国語）
比嘉　徳治（国語）
熊谷　淳義（社会）
積山　和明（保体）
西沢　良仁（理科）
町田　弘美（事務）
栗谷川京子（事務）

クラス会・OB会だより

五十二年度

四月十三日　十八期G組
五月二十八日　二十四期B組
五月二十八日　地理研究部
六月四日　二十四期H組
六月二十五日　十五期A組
七月五日　野球部
十一月十一日　一期
十二月三日　二十四期J組
十二月十九日　二十六期F組
十二月二十五日　二十七期G組
十二月二十六日　柔道部
一月三日　柔道部
一月十一日　二十五期F組
一月十七日　十六期N組
一月二十七日　二十六期L組
一月二十八日　二十四期A組
二月三日　一期
二月十一日　庭球部
二月十七日　十六期N組
二月二十六日　陸上競技部
三月四日　珠算・簿記部
三月五日　二十四期D組
三月十一日　二十六期J組
三月十二日　卓球部
三月十九日　二十四期C組
三月二十二日　四期

訃報

小暮邦広（二七期G組）五月十八日
関口康夫（一期）七月二十五日
中野敏明（二七期I組）八月十七日
杉村　篤（二五期I組）十月十六日
石川守一（二五期F組）十二月二十三日

編集後記

五十一年六月十九日午後三時より東急ゴールデンホールに於いて、約三百名の会員の出席で盛大に二十五周年記念式典が挙行されました。懐しい先生方、久しぶりに会った同窓生と十分に語り合う事ができました。次の機会にはもっと多くの人々と語り合いたいものです。当日、上野先生の論文集「永遠の反省」と記念誌を配りました。五十二年は大きな行事もなく過ぎ、五十三年に入りました今年は駒大高校創立三十周年記念であり、そのための事業も計画されているようです。同窓会としても是非協力したいと思います。また三年後には本会の三十周年を迎える事となるため、その準備にかかる事となりました。同窓生の積極的な協力をお願いします。諸先生方には二月の多忙な時期にもかかわらず同窓新報のために御協力いただき感謝します。最後になりましたが新報七号の発行が遅れました事を陳謝します。